

H28年度 中間評価・実行可能性調査（FS）評価（案）一覧表

【ソフト分野・中間評価】

(H27採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)*
27-1	2	II	研究名	金沢大学 教授 中山 晶一郎	13,710	B
			概要			
27-2	3	II	研究名	山梨大学 大学院 教授 佐々木 邦明	10,990	A
			概要			

(H28採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)*
28-1	-	IV	研究名	東京工業大学 准教授 福田 大輔	32,990	A
			概要			

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)*
28-2	-	IV	研究名	神戸大学 教授 井料 隆雅	25,930	A
			概要			
28-3	-	IV	研究名	広島大学 准教授 塚井 誠人	42,600	B
			概要			
28-4	1	II	研究名	熊本大学 教授 溝上 章志	12,930	B
			概要			
28-5	5	II	研究名	横浜国立大学 教授 中村 文彦	12,950	B
			概要			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【ハード分野・中間評価】

(H26採択・3年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)※
26-4	8	II	研究名	高性能鋳鉄床版の開発	九州工業大学 教授 山口 栄輝	22,980	B
			概要	床版に適する高性能鋳鉄の一体成形性と自由形状性を活かした応力集中緩和と溶接レスの実現により、疲労性能の高い安価な床版を開発する。既存RC床版を軽量化鋳鉄床版に置き換えることにより、既存橋梁の長寿命化及び耐震性の向上を実現するとともに道路拡幅の可能性を高める。			

(H27採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)※
27-3	4	II	研究名	沢埋め道路盛土の経済的な耐震診断と耐震補強の開発	神戸大学大学院 教授 澁谷 啓	27,000	B
			概要	沢埋めの古い道路盛土における災害が依然として多く、また、それらが被災した場合の影響は非常に大きく復旧にも多大な時間を要することになる。本委託研究は、このような被災事例が多い沢埋めの道路盛土を対象に、物理探査と簡易なサウンディングの組合せによる合理的な耐震診断法と、土のう構造体を用いたのり先補強による経済的な耐震補強工を開発するものである。			
27-4	8	II	研究名	薄板モルタルとデータ同化手法を利用したコンクリート橋の3次元塩分浸透予測手法の開発	新潟大学 教授 佐伯 竜彦	10,290	B
			概要	本研究は、飛来塩分環境下にあるコンクリート橋への塩分浸透状況を3次元的に把握するシステムを構築することを目的とする。このために、以下の要素技術を開発し、それを組み合わせる。 (1)薄板供試体とデータ同化手法を用いて、飛来塩分量解析の境界条件を同定する手法 (2)(1)を利用し、橋梁全表面における飛来塩分付着量、即ち、コンクリート中への塩分浸透解析の境界条件となる表面塩分濃度を求める手法 (3)環境条件の影響を考慮した不飽和コンクリートへの塩分浸透予測手法 (4)薄板供試体の効率的な製造・貼付け・回収方法			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

(H28採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)※
28-6	4	II	研究名	新設コンクリート構造物における表層品質検査手法の確立	広島大学 准教授 半井 健一郎	21,110	B
			概要	これまで直接的な検査が不可能とされてきた、コンクリート構造物の耐久性を支配する表層品質を、非破壊試験の組み合わせによって定量的かつ合理的に評価する新たな検査システムを構築し、道路ストックの長寿命化の推進に資する。			
28-7	6	II	研究名	市街地におけるプロビーム道路照明についての研究開発	北海道大学 教授 萩原 亨	7,800	A
			概要	街路における夜間の横断歩行者事故を防ぐ必要がある。ドライバによる横断歩行者の発見を早める方策とし、街路におけるプロビーム道路照明を開発する。プロビームとは、車両の進行方向に光を照射する方式である。ヘッドライトと照明協調することで歩行者の発見を早めることが期待できる。			

【ハード分野・実行可能性調査(FS)評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	FS評価 (案)※
28-8	8	I	研究名	鋼橋の現位置改良工法の開発	(一社)日本橋 梁建設協会 部長 大野 豊繁	9,180	B
			概要	本研究は、損傷した鋼橋を現在の位置で供用しながら、維持管理がより容易な新構造へと改良する新しい工法を開発するものであり、その特徴は、既設主構造から新設主構造へと耐荷機能を移行することである。工法の適用性、安全性と実用性を実験と解析で検証する。			
28-9	8	I	研究名	市町村のニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発	愛媛大学 教授 氏家 勲	9,200	B
			概要	市町村の橋梁点検において、狭小橋梁の点検に伴う通行規制、および点検時の損傷見落とし等が課題となっている。本研究ではこれら課題の解決のため、通行規制を伴わない近接装置および点検支援システムを開発し、狭小橋梁の点検の迅速化、高精度化を同時に達成することを目指す。			

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はありと評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。